



へリオスの入浴 環境改善計画



リフォーム・くふうで
劇的改善



ヘリオスのノーリフ ティングの現状

- ・スタンディングリフトの各部署への標準配備
(1部署あたりスタンディングリフト4台、
介護リフト2台)
- ・車椅子のフットレスト着脱式への98%以上の
変更
- ・技術講習の強化etc.



- ・ 部署での要望により製造メーカーと連携、施設
に最適化した仕様のスタンディングリフトの運用
(スマイルに腹帯や前傾角度2段階変更機能付加)
- ・ 福祉用具が無いと業務にならない、もっと台数や種類
を入れて欲しい、適応の相談増加等の意識変化がみられる。



入浴介助の見直し

排泄、立位介助でノーリフティングの定着が見られる反面、入浴が福祉用具の導入が進んでおらず、スペース等の環境も相まってトランスファーの定着が進んでいない。



体格の大きく、体重がある利用者様の増加で職員の腰痛リスクが増大。





従来の浴室

- 狭い
- 浴室に入る際の高低差が非常に高い
- 浴槽に入る為には大きくまたがなくてはならず実用的でない

問題点

- 浴室に入る為に手製のスロープを使用
- 狭い浴室内でのシャワーストレッチャーを使用した洗体



- タダでさえ手狭な浴室が更に手狭になりトランスファーや十分な整容に必要なスペースが確保できない（そもそもストレッチャー全体が浴室に入らない）
- 手製木造のスロープの為、定期的に交換用を製作する必要あり



リスク

- スロープが滑りやすく転倒、転落の危険性がある。
- 不穩になりやすく、利用者様の創傷リスクが高い。
- シャワーストレッチャーに乗せる場合は高さの調節に腰をかがめて昇降レバーを回す体制になり腰痛リスクが高い体勢からの介助になりがち。



ノーリフティングを導入した浴室改善

- 壁を除去し隣り合った浴室同士を一体化する。



スペースの確保

- 入浴用リフトの導入によるスロープの撤去。



利用者の十分な洗体と創傷リスクの緩和、職員の腰痛防止

- 備え付けの棚等の除去。



捻らない・無理な体勢にならずに業務を行える環境整備



利用者様の利点

- シャワーストレッチャー
の利用減少（抵抗や緊張の亢進等で結果
持ち上げ介助になっている）
- リラックスした体勢で臀部、足趾の間等汚
れをしっかりと洗体出来る。
- リフト対応シャワーチェア、入浴用スリン
グシート2種により身体機能、認知状態にあ
った安全、安心なケアの実現





職員のメリット

- ・入浴時の職員の人員削減
リフトを使用することで基本的な入浴にかかる人員の削減にとどまらず、体格差や性別等で応援人員の配置の必要があったがそのような日数も大きく減少。手の空いた職員でのレク等の充実がはかれる。
- ・腰痛の低減
今までの入浴介助では高さ調節で大きくかがむ事やかがむ動作を維持する必要がある動作が多く、腰痛リスクが大きく低減。

ヘリオス理想の 入浴介助に向けて

- ・「こんなに転倒の不安なくシッカリ利用者様を洗えるなんて」、「入浴介助後のつきものだった腰の張りが無い」との職員の反響があった。
- ・全面的な改装が無理でもリフォームや工夫で利用者様の生活の質向上、職員の腰痛リスクの改善に取り組んでいきたい。

